日蓮大聖人御書全集

しょうにんとうごへんじ

聖人等御返事

新版
1938
〜
1939

聖人等御返事

弘安2年（'79）10月17日　58歳　日興等

今月十五日酉時御文、同じき十七日酉時到来す。「彼ら御勘気を蒙るの時、南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経と唱え奉る」云々。

ひとえに只事にあらず。定めて平金吾の身に十羅刹入り易わって、法華経の行者を試みたもうか。例せば、雪山童子・尸毘王等のごとし。はたまた、悪鬼その身に入る者か。釈迦・多宝・十方の諸仏・梵帝等、五の五百歳の法華経の

行者を守護すべきの御誓いはこれなり。大論に云わく「能く毒を変じて薬となす」。天台云わく「毒を変じて薬となす」云々。妙の字虚しからざれば、定めて須臾に賞罰有らんか。

伯耆房等、深くこの旨を存して問注を遂ぐべし。平金吾に申すべき様は、「去ぬる文永の御勘気の時の聖人の仰せ、忘れ給うか。その殃いまだ畢わらず。重ねて十羅刹の罰を招き取るか」。最後に申し付けよ。恐々謹言。

十月十七日戌時　　日蓮　花押

聖人等御返事

このことのぶるならばこの方にはとがなしとみな人申すべし。また大進房が落馬あらわるべし。あらわれば、人々ことにおずべし。天の御計らいなり。各もおずることなかれ。つよりもてゆかば、定めて子細いできぬとおぼうるなり。

今度の使いにはあわじ房をすべし。